

2018年11月6日

2019年3月期  
(第2四半期累計期間)  
連結決算説明資料

双葉電子工業株式会社

# 目次

- 
- 業績ダイジェスト P1

---

  - 市場地域別売上高 P2

---

  - 営業利益差異分析 P3

---

  - セグメント別業績状況 P4

---

  - 四半期別業績状況 P5

---

  - 貸借対照表の状況 P6

---

  - キャッシュ・フロー P7

---

  - 当初計画からの変化点と下期の経営施策 P8

---

  - 業績見通し P9～10
-

# 業績ダイジェスト

- 売上高は電子デバイス関連で減収となったことから、前年同期より減少
- 営業利益は前年同期を下回ったが、四半期純利益は為替影響等で前年同期並み

(単位：百万円)

	'17/4-9 (実績)	'18/4-9 (実績)	前年同期比 増減額
売上高	34,521	33,439	▲1,081
売上総利益	6,944	6,710	▲234
利益率(%)	(20.1)	(20.1)	
営業利益	189	11	▲178
利益率(%)	(0.5)	(0.0)	
(為替差損益)	(155)	(520)	(365)
経常利益	660	908	248
利益率(%)	(1.9)	(2.7)	
四半期純利益 <sup>※</sup>	452	460	7
利益率(%)	(1.3)	(1.4)	
平均為替レート	111円/\$	110円/\$	▲1円/\$
期末日為替レート	113円/\$	114円/\$	1円/\$

## 当期の特徴

### 売上高

蛍光表示管の需要減少およびホビー用ラジコン機器のコマンド方式サービスの減収

### 営業利益

蛍光表示管の生産体制の整備遅れ、原材料価格高騰、ホビー用ラジコン機器の北米販売体制再編の遅れによる影響を受け減益

### 経常利益

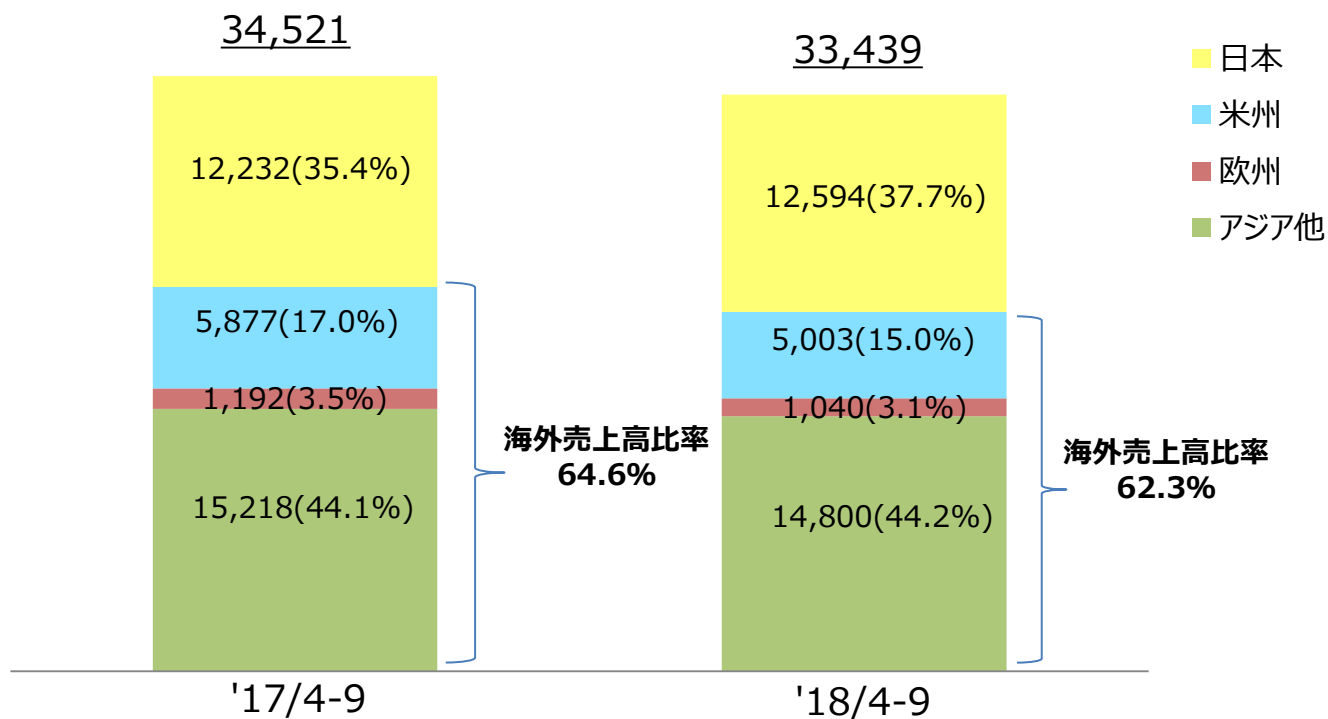
為替差益の増加等により増益

※ 四半期純利益とは、親会社株主に帰属する四半期純利益を指しています。

# 市場地域別売上高

- ▶ 日本 : 生産器材の回復、タッチセンサーの伸長により+4億円の増収
  - ▶ 米州 : タッチセンサー、複合モジュール(EMS)の低迷により▲9億円の減収
  - ▶ 欧州 : タッチセンサーの低迷により▲2億円の減収
  - ▶ アジア他 : 生産器材の回復があったものの、蛍光表示管、有機ELディスプレイの需要減により▲4億円の減収
- 海外売上高比率 : 蛍光表示管、有機ELディスプレイの海外向けの低迷により低下

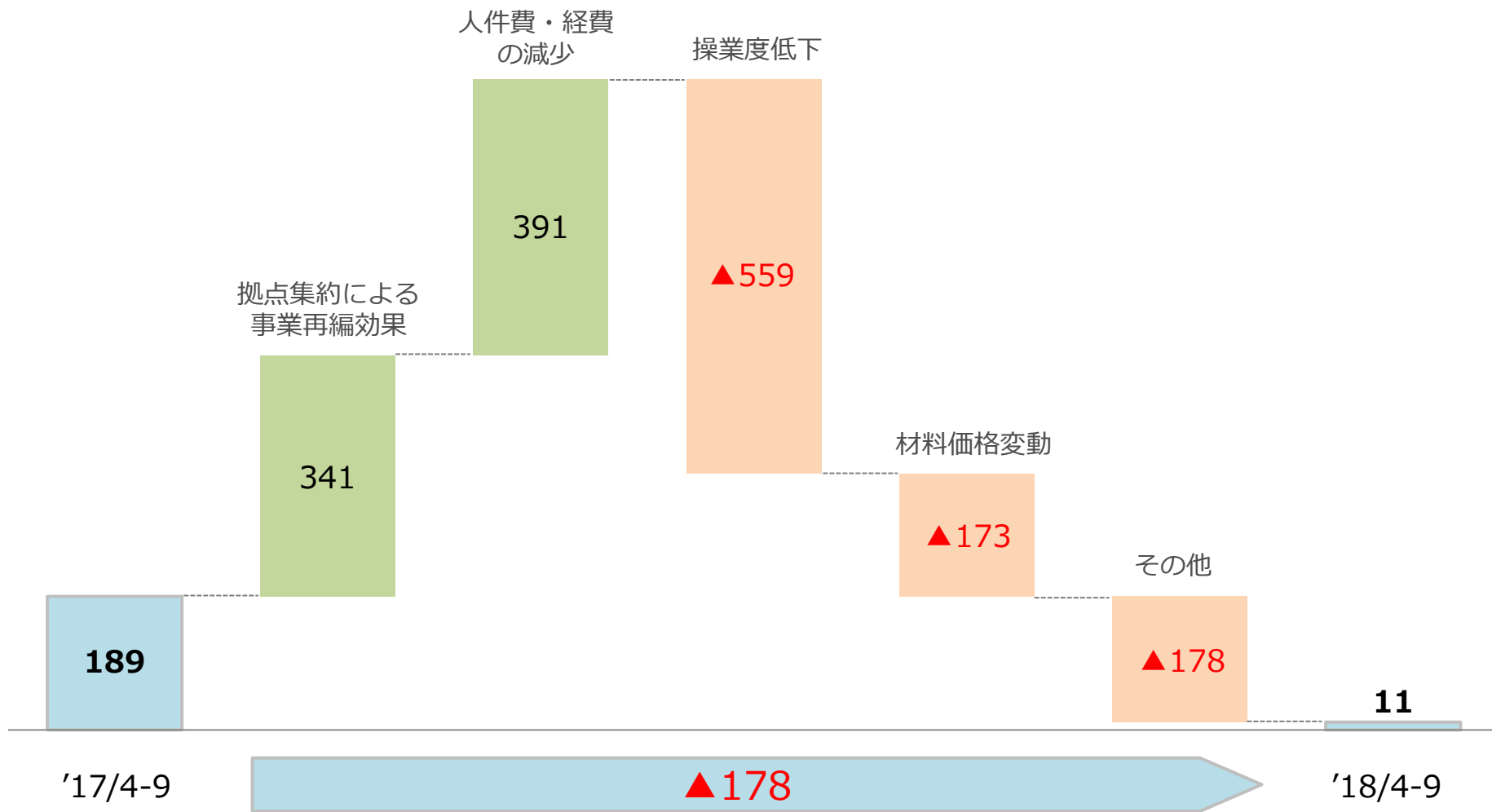
(単位 : 百万円)



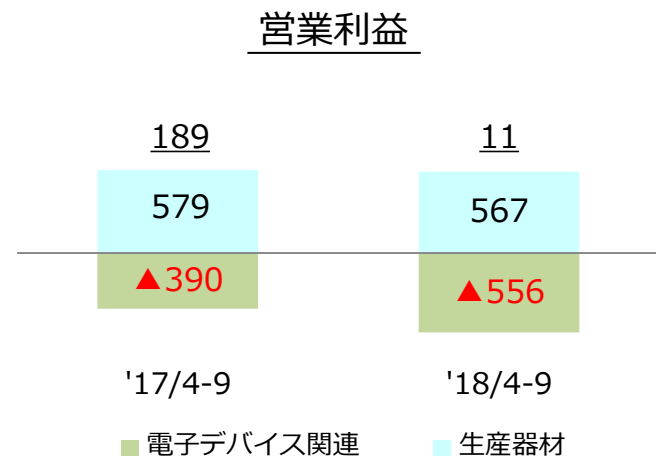
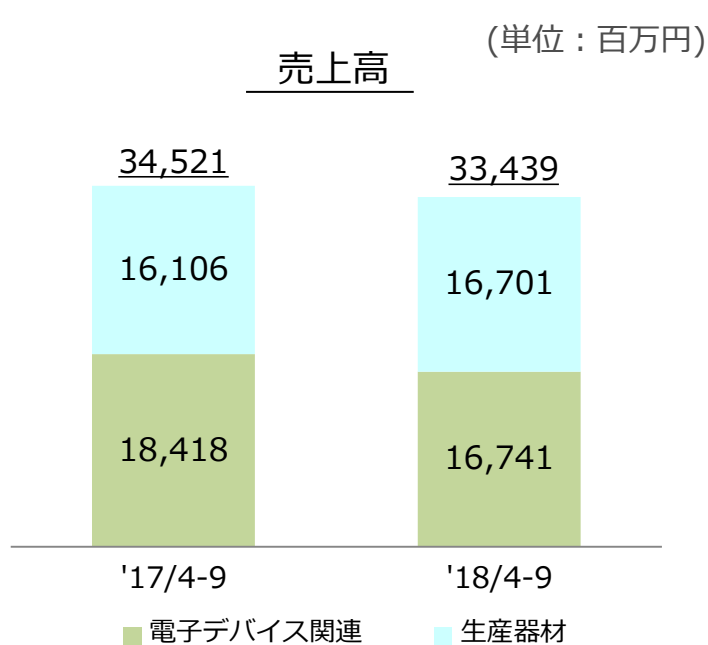
(注) ()内の数字は、売上高全体に対する構成比を表しています。

# 営業利益差異分析

(単位：百万円)



# セグメント別業績状況



## 売上高

### <電子デバイス関連>

- ▶ **蛍光表示管**：車載、音響用途ともに需要減により減少
- ▶ **有機ELディスプレイ**：車載用途は前年同期並みだったが、映像用途や通信機用途ともに需要減により減少
- ▶ **タッチセンサー**：主力の車載用途は国内向けは順調に推移した一方、欧米向けがやや低迷したことにより横ばい
- ▶ **複合モジュール**：車載用途は前年同期を上回ったが、米国のEMSが前年同期を下回ったことにより減少
- ▶ **産業用ラジコン機器**：国内の農業関連向けやFA向けが低迷したものの、北米向けが伸びたことからやや増加
- ▶ **ホビー用ラジコン機器**：前期に発生した北米販売代理店の倒産により、その後の販売体制の構築に時間を要し、また、コマンド方式サーボが低迷したことにより減少

### <生産器材>

- ▶ 国内では、プレス金型用器材および成形合理化機器は順調であった一方、モールド金型用器材の低迷によりやや増加にとどまる。海外では、自動車向けが低迷したものの、スマートフォン向けの好調により増加

## 営業利益

### <電子デバイス関連>

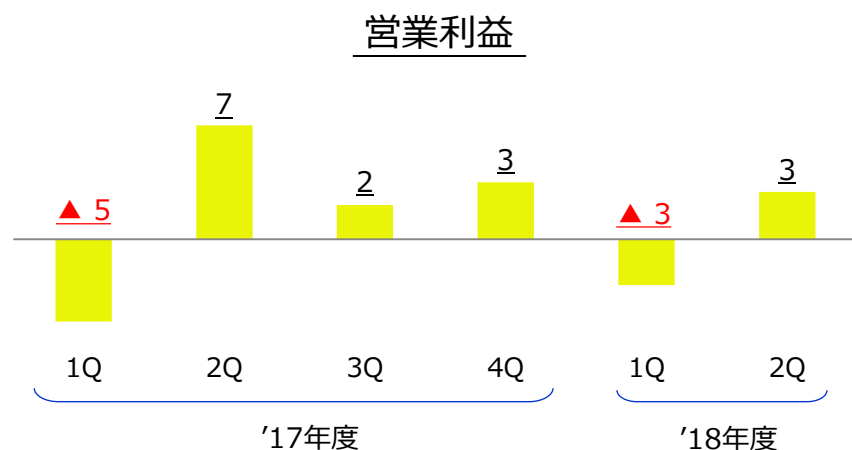
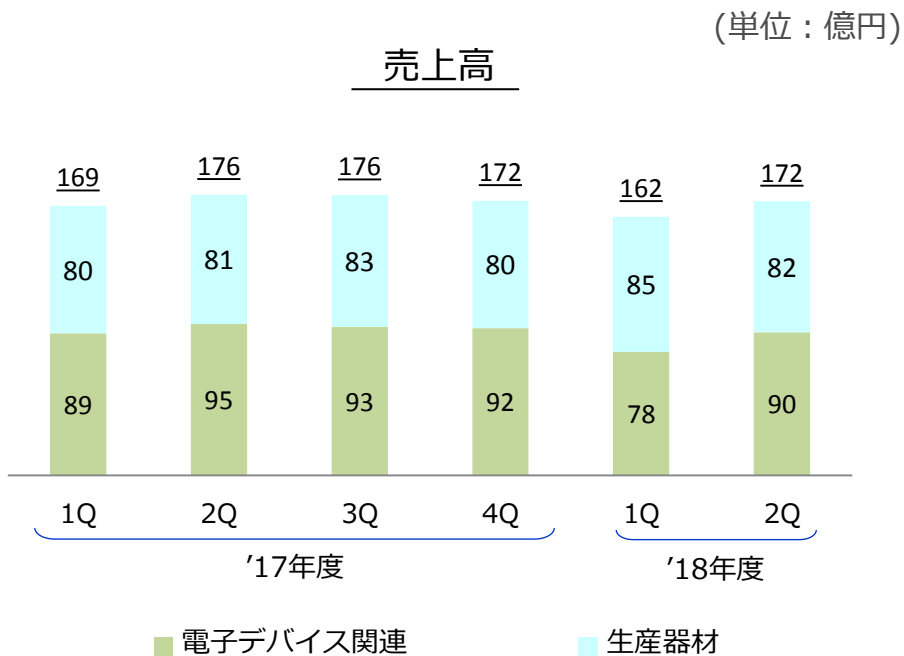
- ▶ タッチセンサーの安定生産による改善があった一方、蛍光表示管の生産体制整備の遅れやホビー用ラジコン機器の売上減などの影響から利益が減少

### <生産器材>

- ▶ プレス金型用器材や成形合理化機器の売上増などがあったが、材料価格の高騰などによる影響で利益が減少

(注) 各セグメントの売上高および営業利益は、内部取引を含んでいます。

# 四半期別業績状況



(注) 各セグメントの売上高および営業利益は、内部取引を含んでいます。

(単位：百万円)

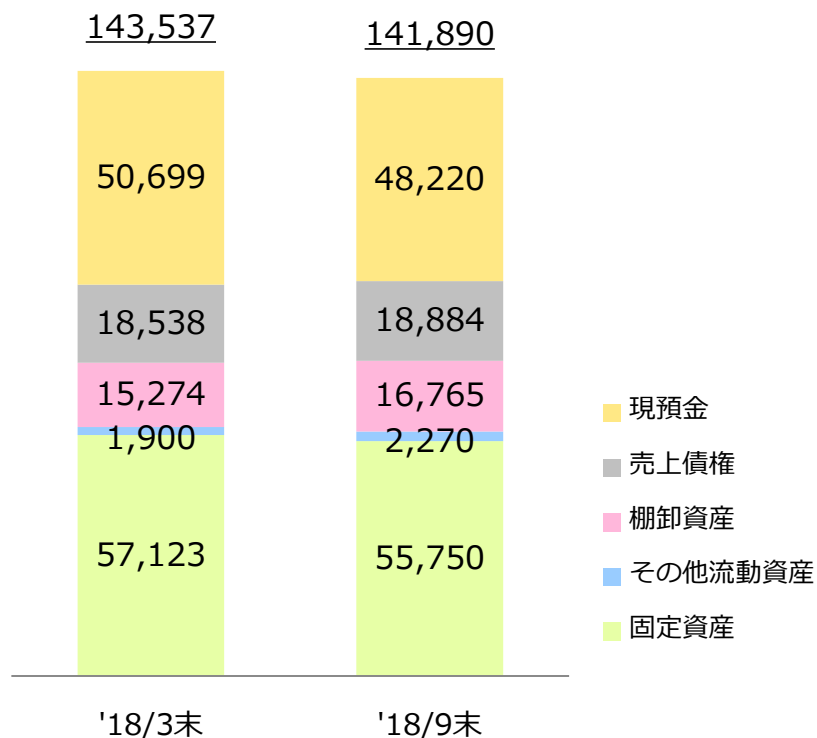
		'17年度	'18年度		増減額	
		2Q	1Q	2Q	前年同Q比	直前Q比
連結合計	売上高	17,619	16,236	17,203	▲416	966
	営業利益	670	▲267	278	▲391	546
	利益率(%)	(3.8)	(▲1.6)	(1.6)		
電子デバイス 関連	売上高	9,495	7,760	8,981	▲513	1,220
	営業利益	173	▲543	▲12	▲186	531
	利益率(%)	(1.8)	(▲7.0)	(▲0.1)		
生産器材	売上高	8,126	8,477	8,223	97	▲253
	営業利益	496	276	291	▲204	15
	利益率(%)	(6.1)	(3.3)	(3.5)		
平均為替レート		111円/\$	109円/\$	112円/\$	1円/\$	3円/\$
期末日為替レート		113円/\$	111円/\$	114円/\$	1円/\$	3円/\$

# 貸借対照表の状況

- 総資産：▲16億円の減少  
減少要因：特別配当支払いによる現預金の減少  
投資有価証券の減少(主に評価差額)
- 純資産：自己資本比率 81.3%(前期82.0%)

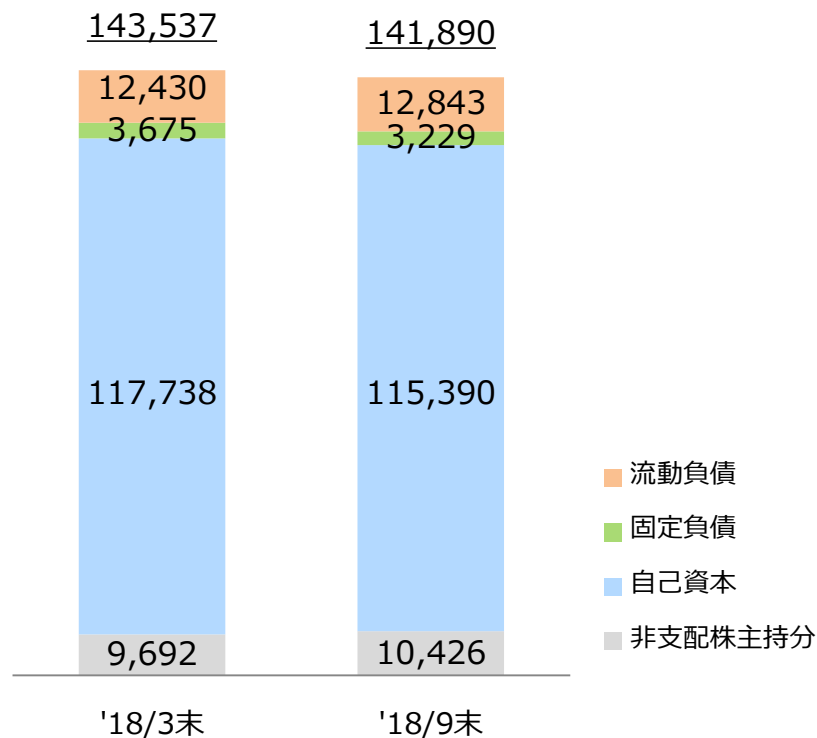
## 資産

(単位：百万円)



## 負債・純資産

(単位：百万円)

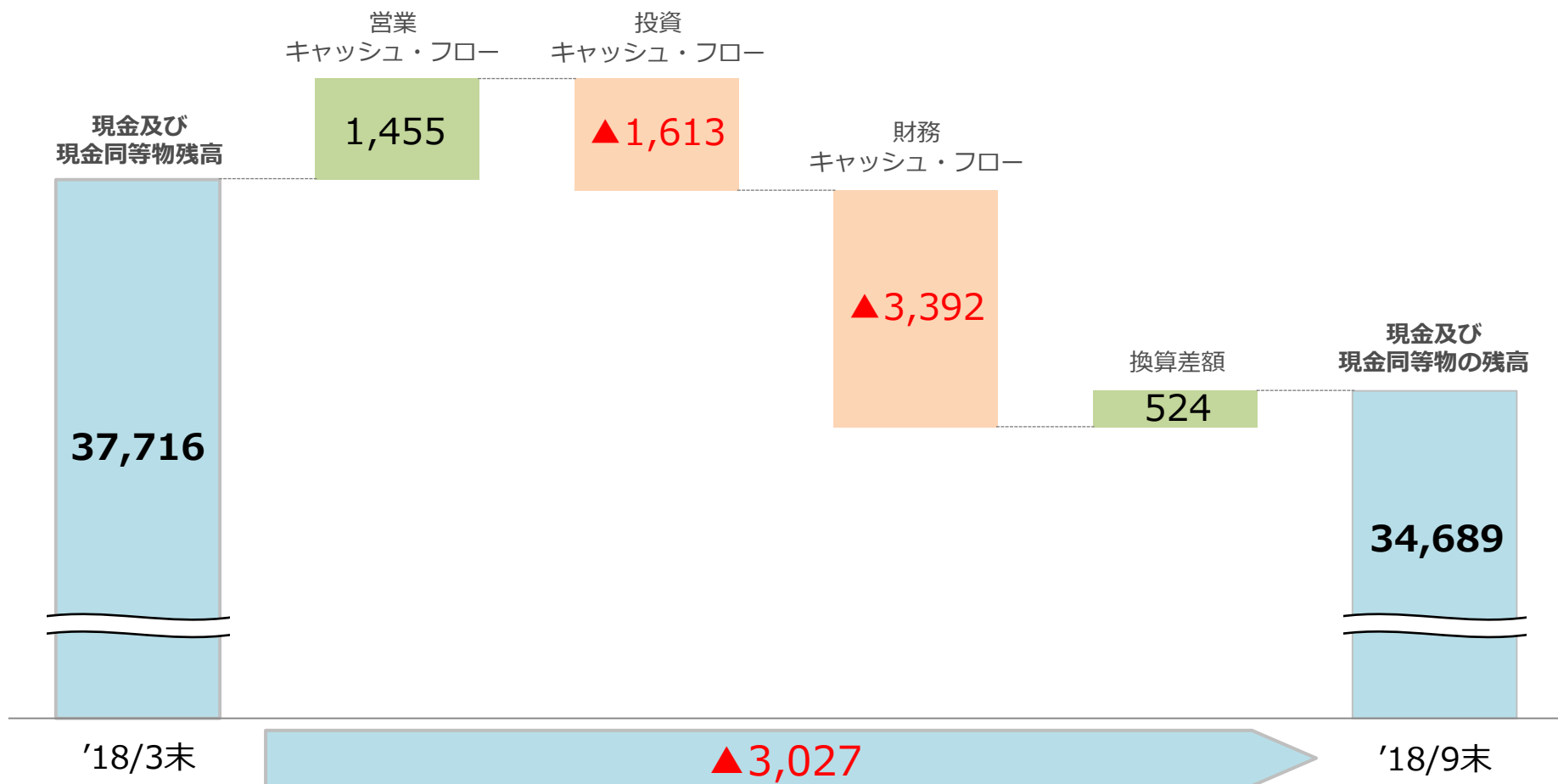


(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」に伴い、前期末数値を一部変更して記載しています。



# キャッシュ・フロー

(単位：百万円)



# 当初計画からの変化点と下期の経営施策

## 当初計画からの変化点

### ■ 電子デバイス関連

- ▶ 蛍光表示管の海外拠点集約を実施したが、生産性に課題
- ▶ システムソリューションでは、技術・リソースの共有とシナジー創出を目的に、セントラル電子制御株式会社をグループ化

### ■ 生産器材

- ▶ 国内では、プレート需要の変化(規格品減少など)による収益体制構築の遅れ
- ▶ 海外では、中国での市場低迷、韓国の雇用環境変化による施策への影響

## 下期の経営施策

### ■ 電子デバイス関連

#### ● ディ스플레이

- ▶ 蛍光表示管では、生産拠点集約後の生産体制確立
- ▶ 有機ELディスプレイの部品調達合理化による原価低減推進

#### ● タッチセンサー

- ▶ 生産拠点での更なる生産性向上および高付加価値商品の開発と拡販促進

#### ● システムソリューション

- ▶ ホビー用ラジコン機器では、北米販売の強化と新製品投入
- ▶ IoT分野での融合商品(無線ゲートウェイなど)の市場展開

### ■ 生産器材

#### ● プレート製品

- ▶ 設備、装置業界向け製品の拡販推進と自動化生産ラインの生産能力向上

#### ● 金型用器材

- ▶ 金型用部品の全加工ニーズに対応した受注・生産システムの改良による納期対応力の強化

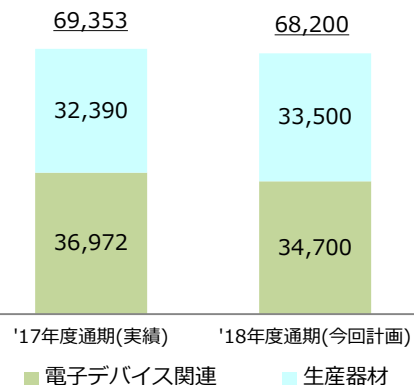
#### ● 成形合理化機器

- ▶ 成形品の品質管理用途に向けたIoT製品の開発(カブク社との連携)と海外販売体制の強化

# 業績見通し(1)

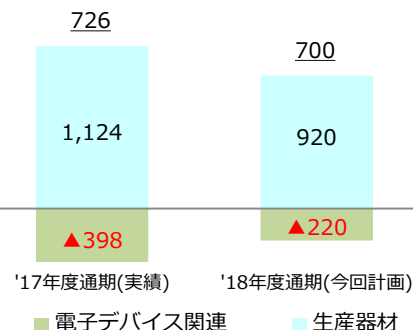
(単位：百万円)

## 売上高



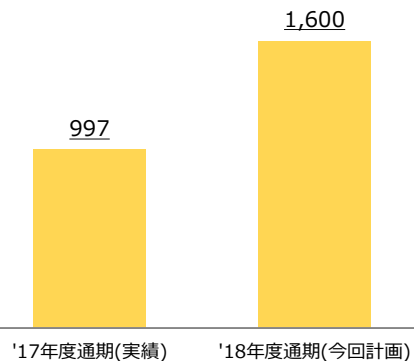
(単位：百万円)

## 営業利益



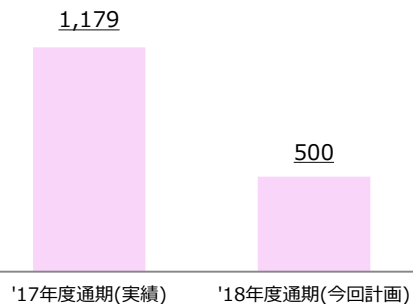
(単位：百万円)

## 経常利益



(単位：百万円)

## 当期純利益 ※



(単位：百万円)  
前期比較

	'17年度 通期(実績)	'18年度 通期(前回計画)	'18年度 通期(今回計画)	増減額
連結合計 売上高	69,353	70,000	68,200	▲1,153
連結合計 営業利益	726	1,200	700	▲26
連結合計 利益率(%)	(1.0)	(1.7)	(1.0)	
電子デバイス 関 連 売上高	36,972	35,500	34,700	▲2,272
電子デバイス 関 連 営業利益	▲398	0	▲220	178
電子デバイス 関 連 利益率(%)	(▲1.1)	(0.0)	(▲0.6)	
生産器材 売上高	32,390	34,500	33,500	1,109
生産器材 営業利益	1,124	1,200	920	▲204
生産器材 利益率(%)	(3.5)	(3.5)	(2.7)	
(為替差損益)	(▲330)	(▲42)	(242)	(573)
経 常 利 益	997	1,600	1,600	602
経 常 利 益 率(%)	(1.4)	(2.3)	(2.3)	
当 期 純 利 益 ※	1,179	500	500	▲679
当 期 純 利 益 率(%)	(1.7)	(0.7)	(0.7)	
平均為替レート	111円/\$	105円/\$	110円/\$	▲1円/\$

(注) 1.各セグメントの売上高および営業利益は、内部取引を含んでいます。

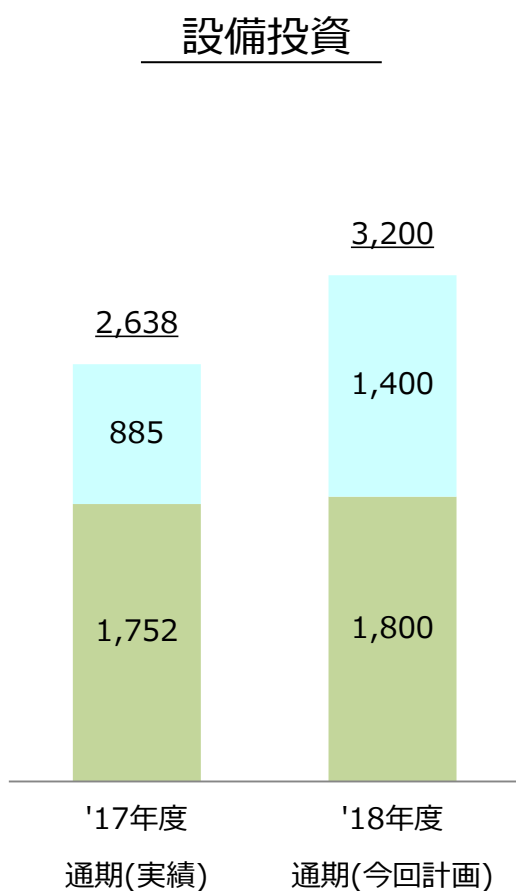
2.前回計画は、2018年5月11日公表しました業績予測数値です。

※ 当期純利益とは、親会社株主に帰属する当期純利益を指しています。

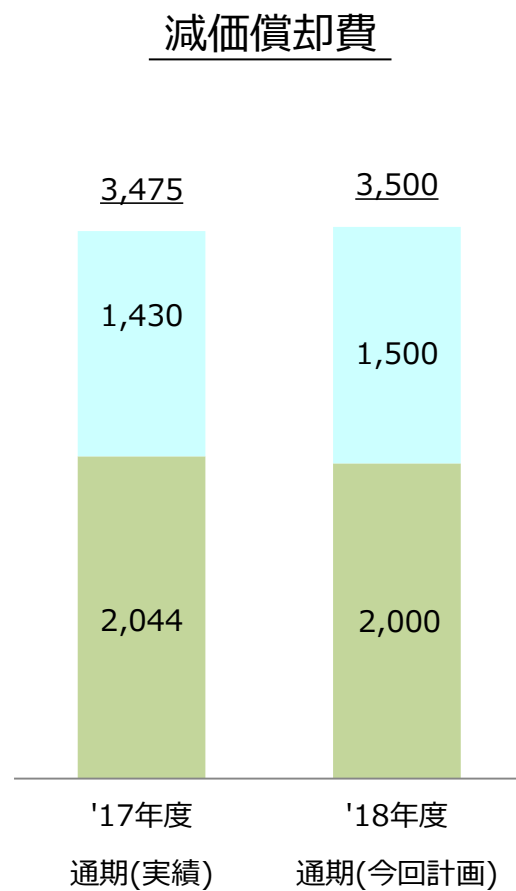
# 業績見通し(2)

(単位：百万円)

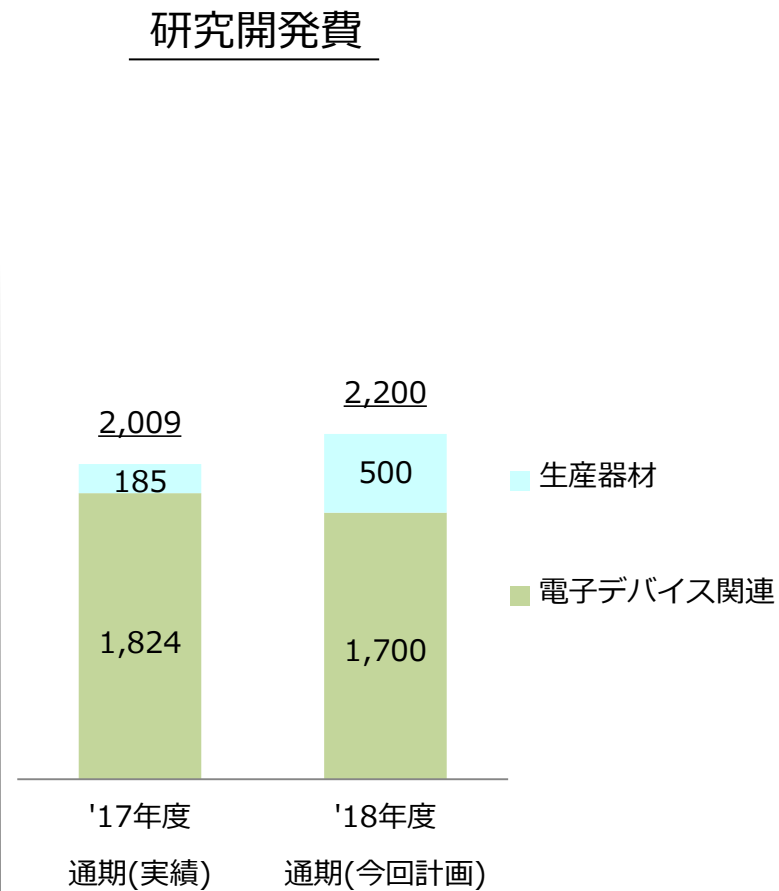
## 設備投資



## 減価償却費



## 研究開発費



## 注意事項

1. 本資料に記載されている業績予想については、当社が現時点で入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいた見通しであり、為替などの潜在的なリスクや不確実性を含んでいます。  
実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績予想とは異なる結果となり得る事をご承知おき下さい。
2. 本資料に記載されている金額は、百万円は単位未満を切り捨て、億円は単位未満を四捨五入して表示しています。